

# エリア ウェブ

峡東教育事務所  
地域教育支援スタッフ  
TEL 0553-20-2737  
FAX 0553-20-2733

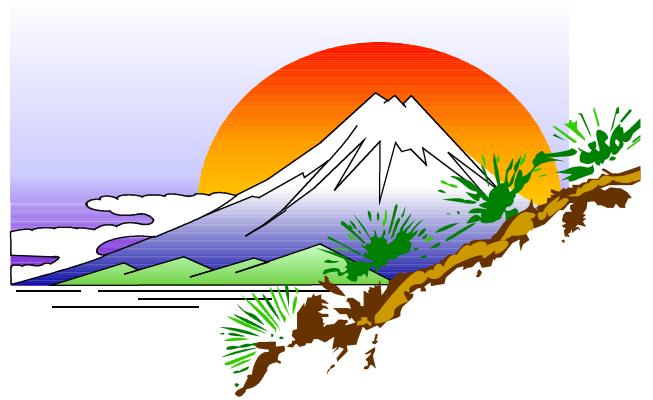
回覧・配布をお願いします。増す刷り配布はご自由にどうぞ。山梨県庁のホームページでも掲載中です。

<http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/kyoiku-hym/index.html>

ご意見・ご感想はこちらまで Email : miyazaki-atru@pref.yamanashi.lg.jp

## 「今年もよい親でありますように。」

新しい年を迎え、多くの人が、  
『今年も良い年になりますように。』  
と手を合わせたことでしょう。  
「年」を「親」に置き換えてみたらどうでしょうか。  
「今年も良い親になれるように。」  
そんな思いで出発しても、1年たって  
「やっぱり今年もガミガミ怒ってしまったなあ。」と後悔することがあります。  
私自身、反省の毎日ですが、次のようなことを意識するようになってから、少しだけ楽になった気がします。



- (1) 子どもたちは、失敗しながら成長していくもの。
- (2) 失敗を通して学ぶことが、より子どもものものになる。
- (3) 怒声と暴力で育てられると、おびえる子が、反抗する子になる。

「1回や2回の失敗でやめさせるような会社だと、チャレンジしようという精神が薄れてしまう。何より若い人のやる気をなくしてしまう。」

まさに失敗から学ばせ、立ち直らせることの大切さを教えてください。

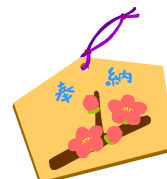
子どもたちは、本当によく失敗をします。だからこそ子どもなのでしょう。失敗を失敗として分からせ、次にはこんなことに気がついたらいいと教えるのが、親であり、教師であり、大人の責任だと思ふのです。

『失敗したときが、指導のチャンス』と、よく言います。  
「またこんなことして！」と叱るより  
「しめた！」と発想を切り替えてはいかがでしょうか。

あるテレビ番組の話です。  
某玩具メーカーがヒット商品をねらったのですが、予想が大外れ。260億円ほどの損失を出してしまいました。そのプロジェクトのチーフは責任を感じて辞表を出しました。しかし、社長は辞表を受け取る代わりに、「この会社において損失を取り返せ。」と言ったのです。

社長の言葉を受けて、彼は懸命に働きました。その後、その玩具メーカーは次々とヒット商品を出し、前回の損失を本当に取り戻してしまったそうです。

その時の社長の言葉が今でも心に残っています。



# 思いを伝えるために...

毎日の仕事に追われながらも、必死に子育てをしているお母さんやお父さん。

でも時には空回りをしてしまうことがあります。真剣に子どものことを考えているのに、その気持ちがうまく伝わらないのはなぜでしょうか。

いろいろな原因があると思います。

「教師のためのソーシャルスキル」(都留文大 河村茂雄教授)によると、子どもたちとうまく関われない原因として次のようなことが書かれていました。

## 子どもたちの実態の理解が適切でない

「小学 年生ならこれくらいできて当たり前」というような先入観で子どもたちを見る。

## 自分の思いを子どもたちが理解できるような言葉や態度に置き換えていない

「これくらいのことは言わなくても分かるはず」という思い込み。

## 適切に子どもたちに伝えられていない

「言い方がぎこちない」「言い方が暗い」「言い方が命令調」等の理由で思いが相手に伝わらない。

## 「いい子に育ててほしい」

そんな願いをどの親も持っているはず。同じように、はじめから悪くなりたいと思う子もいないはず。

お互いに同じ目的なのに、思いがなかなか伝わらないのはなぜでしょうか。



つきつめて言えば、『子どもたちという時間をどう過ごしているか』ということだと思います。「忙しいから、子どもと過ごすヒマがない」と諦めるのではなく、少ない時間でも、一緒に楽しく過ごす。せっかくの子どもとの時間なのに、怒ってばかりいてはもったいないことです。それは遠くへ旅行するとか、高級レストランで食事をするとかではなくていいのはもちろんですね。

## 子どもは自分で伸びる力を持っている

親が考える「いい子」のイメージに、我が子を当てはめようとし過ぎると、返って子どもとの関係を難しくしてしまうことがあります。時には子どもの力を信じ、まかせる勇気を大人自身が持つことも必要だと思います。

子どもと一緒に時間を大切に、よりよい関係をつくるのがスタートです。子どもとの関係ができれば、時には厳しいことを言っても心に響くはず。

## つなげよう 子どもの育ち 子どもの学び

「峡東地区 保・幼・小・中連携セミナー」を開催します。

1. 日時 平成20年1月29日(火)  
午後2時より受付、2時30分～4時50分
2. 場所 山梨市民会館 3階大集会室(千鳥の間)
3. 参加者 保育所・園、幼稚園の職員、小中学校の教職員  
保・幼・小・中連携教育に関わる方、関心のある方
4. 内容 《第1部》提案・話し合い  
《第2部》講演・助言



助言者；山梨大学 教育人間科学部 教授  
鳥海順子先生

5. 主催 峡東地域教育推進連絡協議会、山梨県教育委員会、峡東教育事務所
6. 申し込み 1月22日(火)までに、峡東教育事務所(0553-20-2737)へ



# 成長は厳しさの中から



もうずいぶん前に、雪国へ行った時のことです。

吹雪の中にもかかわらず、子どもたちは、歓声を上げて走り回っていました。

私たちのすぐそばに、1本の枯れ木がありました。「厳しい冬の寒さで立ち枯れてしまったのか」と近づいてみると、しっかりとつぼみをつけていました。やがてやって来るであろう春の訪れを待ち望んでいるようでもありました。

枝も引き裂かれんばかりの烈風に耐えながら、立ちつくす姿はたくましささえ感じました。

「できるだけ子どもたちに苦勞をさせたくない」と思うときがあります。しかし、小さい頃に「がまんする力」や「最後までやり続ける力」など、身につけるべきものがたくさんあるはずで、その

ような力をつけないまま社会へ出たならば、温室の中に入っていた植物を突然寒空の下に出すようなもので、簡単に打ちのめされてしまうことでしょう。

子どもをダメにする一番簡単な方法は、「子どもの言うことを何でも聞く」ことです。

「あれ買って」「ほしいよ」

「やりたくな～い」

子どもたちの言い分を何でも聞くことがどんどん子どもをダメな子にしていけます。

いつでも話を真剣に聞いてくれる親でありたいと思います。でも「ダメなものはダメ」と時には厳しく子どもに接し、どうしてダメなのかという理由もしっかり伝えたいものです。



## バランスの良い子育てを

～心も体も健康生活づくり～



「元気アップ親子セミナー」来年度の実施団体を募っています

「元気アップ親子セミナー」とは、学校、家庭、地域が連携し、子どもの体力向上や望ましい生活習慣の形成に向けて、子どもの体力を向上させるための取り組みとして、文部科学省が推進している事業です。

本年度は県下で保育園・小学校など5団体が実施しました。来年度も県下で同数の実施を予定しておりますが、今まで峡東地域が少ないようです。現在、来年度の希望団体を募っているところですので、実施してみたいかがでしょうか。

ぜひ、お気軽に申し込んでください。

### 対象

保護者と児童または幼児

### 運営

教育委員会や地域の団体などで、開催する場所は地域の小学校などです。

### 規模

小学校区から市町村規模までのエリアで、参加人数は保護者と子どもで30組～300組程度です。

### 主な活動内容

保護者向けセミナー

(子どもたちは運動や創作活動など)

元気アップエクササイズ

「アイダ・アイダ」の体操

子育てしゃべり場

(子どもたちは運動や創作活動など)

### 〈お問い合わせ先〉

山梨県教育委員会スポーツ健康課

担当；前田 雄二

Tel 055-223-1782

声かけて 声かけられて 広がる輪  
「おはよう」で始まる 明るい一日

## 芸術文化祭受賞！

### 第28回山梨県高等学校芸術文化祭

写真の魅力は、自分の力で最初から最後まで作り上げた時、そこに世界で一枚しかない自分の写真が完成することにあると思います。今回、一年間の各種コンテストで上位を受賞した作品を集めた芸術文化祭で、最高賞にあたる芸術文化祭賞を受賞した時の喜びは言葉に表せないものがありました。園芸高校で写真と出会い、私の高校生活は充実したものになりました。

写真部部长 樋口香奈子さん（食品化学科三年・一宮中出身）

私達が、この大舞台に出場できたのは、多くの方々の支えがあったこととお礼申し上げます。多くの方の応援があり好きな太鼓の演奏ができるのだと実感しました。

部員と気持ちが一つになった喜びと、感謝することの大切さ。私達の演奏は、きっと会場にいた方の記憶の片隅に残っているとと思います。出発前に部員達と誓った、「語り維がれる演奏」をステージに置いてこれたと思います。そこには、絆の糸があったことは言うまでもありません。

すいれき太鼓部部长

福嶋孝顕君（農業土木科三年・御坂中出身）

十一月四日、第二十八回山梨県高等学校芸術文化祭放送部門が甲府第一高校で行われ、各学校の放送部員や視聴覚委員の代表がアウンス部門、朗読部門、ビデオメッセージ部門、オーディオピクチャー部門で発表披露した。朗読部門に参加した一年生の小田切穂穂さん（食品化学科一年・浅川中出身）が一位となり芸術文化祭賞を受賞しました。この結果、来年八月に群馬県で行われる全国大会への出場権を得ました。小田切穂穂さんは山梨県の民話から「笛吹権三郎」を朗読しました。方言や登場人物の感情等の表現に苦勞していたが、発表結果を聞き信じられない様子でした。全国大会では山梨県の代表としてがんばってくださることを信じています。また全国の放送部員と交流を深め、見聞を広めてきて欲しいと思います。





# がんばる！

# 山梨園芸高生



## 今年も国立大学推薦入試合格！

山梨大学工学部生命工学科合格

谷 飛翔君（食品化学科三年・甲府東中出身）

私は中学の時から、普段何気なく口にかけている食品についてとても興味があり、山梨園芸高校へ入学しました。教室で座って受けているだけの授業とは違い、実験や実習などでは、実際に自分の目で見て、手で触れることによって、より理解が深まります。時には予想と違う結果が出ることもや失敗もありましたが、それによって新たにわかることもあり、毎回、実習や実験がとても楽しいです。

山梨園芸高校は、全国でも数少ないワイン醸造の免許を持つ学校です。また、ワイン製造は果樹王国と呼ばれる山梨では、地場産業ともなっています。私は高校で学んだワインの学習を通して、山梨のワインをもっと世界へ広めていきたいと思うようになりました。そのため、さらに高度な知識と技術を学ぼうと山梨大学を目指しました。専門教科の復習を中心に、化学の基礎や、口頭試問の練習など、先生方に指導していただきながら勉強しました。

指導していただいた先生方には、とても感謝しています。

## 山梨科学アカデミー賞受賞

植物研究部次期部長 三枝 美里さん

（園芸科生物工学コース一年・石和中出身）

まず、第五十一回日本学生学賞山梨県審査で最優秀賞（県教育長賞）に入り全国審査に進みました（二年連続）。そして、第二十八回山梨園芸高校芸術文化祭自然科学部門では、過去最多の二十九の研究発表を抑えて、第一位の山梨科学アカデミー賞に輝きました（平成十三年度以来二度目）。毎日の部活動の地道な努力が報われ、みんなで喜びを分かち合いました。

私たちが植物研究部は、現在三年男子二名、一年女子四名からなる文化系のクラブです。私たちは十五年にわたり歴代先輩が引き継いできた南アルプスの絶滅危惧植物のバイオ技術などによる保全・増殖研究を行っています。今年、そんな夢を描いて取り組んだ私たちの研究が、二つの科学コンクールにおいて最優秀に輝きました。

